

十一月例会 御案内 (平成二十九年・通算第六七九回)

公益財団法人協和協会

○ 御案内

十一月二十九日(水)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館一階一〇二会議室
講題 人工心臓を夢見て、治療に医療機器を初めて導入！
講師 渥美和彦先生(東京大学名誉教授、東京大学医学部元教授、鈴鹿医療科学大学元学長)
◎ 当協会の内部に、二十年ほど前から医療福祉部会があり、厚生省事務次官を務めて退任された多田宏先生が、医療福祉部会長を務めて下さり、当時は、医師・看護師と福祉・介護士との間がしっくりしなかったのを、当医療福祉部会での双方に出席してもらい、融和・協調の場とされたという、極めて意義ある業績もあります。
そうした成果を挙げた多田宏先生が退任されたあと、医療福祉部会も停滞・自然休会となっておりましたが、昨年、渥美和彦先生が、医療福祉部会長をお引き受け下さるようになりました。渥美和彦先生は、東京大学医学部で心臓外科の権威ですが、心臓病による死亡率を減らすため、先生は医療分野にイノベーション(技術革新)を導入し、人工心臓を夢見て、治療に医療機器を初めて導入された先覚者です。渥美先生は、その回想録を、当日参加者に贈呈下さるそうです。貴重なお話がうかがえると思いますので、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)
□ 当日会費(昼食付き) 会員は四千元、非会員五千元。

公益財団法人協和協会

十一月二十九日(水)の月例会△△に

出席 欠席 (いずれかに○印を)

当日連絡先 080-8836-6203 重田
080-9292-2620 高津
http://www.kyowakyoikai.or.jp (通話のみ)
電話 03-3581-1192
FAX 03-3507-8587

御芳名
貴方様のFAX
メール

▽十一月二十七日(月)までに出席の御連絡賜りたく。

◎ 御報告

去る十月二十六日(木)の月例会は、ケント・ギルバート先生に「儒教に支配された中国人と韓国人の悲劇——それを乗り越えた日本人との違い——」と題して、御講話いただきました。ケント・ギルバート先生は、アメリカ人ですが、一九七一年に訪日され、すっかり日本が好きになり、国際弁護士となつて、一九八〇年から東京に在住して、弁護士傍ら、日本の研究を進められ、知日派として、テレビによく出演され、日本に関する御著書も沢山あります。その著書の中でも、中国人や韓国人と日本人とは、顔や姿は似ていても、その考え方や心情が大きく異なることを研究され、その違いの根源は、中・韓が中国古典の儒教に大きく影響されたままであるのに対し、日本人は儒教を卒業して広い視野を有していることにある、と喝破されていることから、大層いま評判になっております。
この本を読んで感動した当団体執行部は、直にお話を聞いて意見交換したいと思い、月例会での御講話をお願いに出たところ、お快く応じて下さいました。
先生のお話は、広範多岐に渡つて、実にすばらしい分析でした。その内容を記すことはできませんが、日本は、古墳遺跡をみても最も古くから文化・文明を持っている。その国民性は、誠実、真面目で、思いやりがある。東日本大震災の大混乱の中でも暴動・略奪が起こることなく、助け合う姿は、世界から驚嘆された。ただ、こうした日本人の美徳は、外交面ではマイナスとなる。日本では「ごめん」と言えば許されるが、これは日本国内でだけ通用するものだ。中国と韓国など儒教の国では、謝ることは罪を認めることになる。中国には自分だけが貴いという中華思想があり、他国・他民族を低くみる。韓国も、中華思想に取り込まれ、何事も「事大主義」である。その後、現代社会の様相をも分析され、質疑応答も盛んで、意義ある一日でした。(清原記)

▽ 当「公益財団法人協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作つて、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会のほかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府へ提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は桜内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・前外務副大臣・現議院運営委員会理事が就任している。

▽ 事務局電話(03) 3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津